

KEEP

SAFETY

FIRST.

個別規範の項目と取組ポイントの紹介



情報分析・活用

1-(5)-① 行政等への報告義務のない軽微な負傷を含む事故事例やヒヤリ・ハット事例を積極的に収集・分析・共有し、再発防止策を講じるとともに危険予知能力を高める。

❗ 取組のポイント

- 作業中に起こった小さなケガも含めた事故事例やヒヤリ・ハット事例について、報告しやすい環境を作りましょう。
- また、把握した事例については原因を分析し、再発防止策を話し合ったり、実施しましょう。

参考 実践に向けた工夫

軽微な事故やヒヤリ・ハットは時間が経つと忘れてしまうため、日々報告・共有する機会を作りましょう。
例えば、作業後の後片付けを全員で集まって行うことで、その日のうちに情報共有しやすくなります。
また、ヒヤリ・ハットを記録する場合は発生時の状況を詳しく記載し、対策に繋げましょう。

ヒヤリ・ハットの記録(例)

作業形態	伐倒
内容	伐倒方向が急に変わった
不安全行動	ソル幅を残さなかった
行動の要因	あわてていた



事故発生時の備え

2-(2)-① 事故が発生した場合の対応(救護・搬送、連絡、その後の調査、労基署への届出、再発防止策の策定等)の手順を明文化する。

❗ 取組のポイント

- 無線や携帯電話の通話可能な箇所を作業前に調べる等、作業事故が発生した場合の対応についてあらかじめ整理し、従事者へ知らせておきましょう。
- 一人親方のように他に従事者がいない場合であっても、万が一の対応を家族が実施できるよう手順を書いて伝えておきましょう。

参考 実践に向けた工夫

緊急時の対応について記載した**作業計画書を現場に掲示**することで、朝礼時の作業確認と併せて緊急時の対応についても確認することができます。

※「林業に新規参入する労働者に係る労働災害防止対策推進事業」にて、作業計画書のひな形が公開されています。

作業計画書ひな形より抜粋

緊急時の対応	①緊急車両の走行経路(緊急連絡先)	林班(字)	小班(地番)	GPS経度: 緯度:			
		・	消防署	(	—	—	)
			病院	(	—	—	)
			・緊急車両待合せ場所	(林道等名称:)			
	・	(位置・特徴:)					
	・会社(	事務所): — —					
	②携帯電話等・無線通信による通信可能範囲	・林道等名称: ” 位置:					
応急措置及び傷病者の搬送方法	・救急セット配備場所	:					
	・普通救命講習受講者名	:	(普通Ⅰ ・ 普通Ⅱ)				
	・折りたたみ布担架等の配備場所:						
③備考							

KEEP

SAFETY

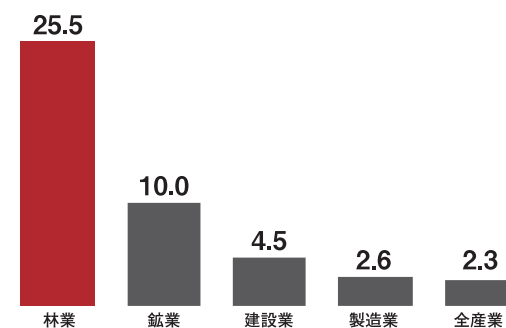
FIRST.

林業就業者の皆様へ

「作業安全規範」を活用して
安全対策を見直しましょう林業の災害発生率は
全産業の約10倍

林業の災害発生率は、建設業の5倍以上と、他産業に比較して非常に高い状況となっています。

業種別死傷年千人率(休業4日以上/2020年)



出所: 厚生労働省「産業別死傷年千人率」

注: 死傷年千人率とは、労働者1000人あたりの1年間に発生する労働災害による死傷者数(休業4日以上)を示したものである。

事故を減らすため、改め

て安全対策を見直すこ

とが必要です。このた

め、農林水産省では、

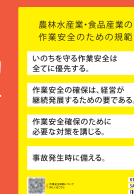
「作業安全規範」を

作成しました。

作業安全規範

共通規範

安全の確保に向けた基本的な姿勢などの4項目を定めています。



個別規範

6分野・25項目の安全取組を示しています。個別規範本体のほか、チェックシート、解説資料の3種類があります。



①まずは、「チェックシート」を用いて、セルフチェックを行いましょう。

②実施していない項目については、新たに取り組むことを検討しましょう。

▶▶▶ 次ページ以降で、「個別規範」の取組のポイントを解説しています



人的対応力の向上

1-(1)-⑥ 安全対策の推進に向け、従事者の提案を促す。

！ 取組のポイント

- 労働安全衛生法に基づく安全衛生委員会や、各種ミーティング等の機会を活用し、従事者からの安全対策に関する提案をしやすいようにしましょう。

参考 実践に向けた工夫

朝礼における作業安全対策として、①**その日の作業内容**に合わせ、②**簡単にポイントがわかる安全作業日報**を作成し、従事者が確認できるようにしましょう。

(例)安全作業日報	
本日の作業内容	造材、搬出
危険予知	材の滑りによる事故
対処方法	しっかりと材をつかんでから作業する 材を積み過ぎない

月次・年次のミーティングでは作業ごとの危険予知と対策に加え、①災害に至る過程、②リスクレベルの評価を作業班ごとに考えてもらいましょう。

リスクアセスメントの実践方法については、林災防より詳しく公開されています。

林材業におけるリスクアセスメント

簡易リスクアセスメント記録書（林業）				林災防指
年月日 (実施)	年 月 日 (天候)	作業現場	[記録者]	
作業内容		メンバー		
各種上段の「危険の洗い出し」については以下による。 ～するとき ～したため ～（事故の型）になる				
作業種				可能性 重大性
No.1	危険の洗い出し			
	どうする低減対策 			



ルールや手順の遵守

1-(2)-③ 作業に応じ、安全に配慮した服装や保護具等を着用する。

！ 取組のポイント

- チェーンソー従事者はヘルメット、下肢切創防止保護衣（防護スポン・チャップス）の他、手袋、防護ブーツ、木片や石などの飛来から顔や目を守るための保護網や保護眼鏡、騒音から耳を保護するイヤーマフ等を着用しましょう。
- 特に下肢及び足元の防護は、チェーンソーや刈払機による切創事故防止にとって効果的です。

参考 実践に向けた工夫

防護ブーツは地下足袋等に比べ、歩きにくいという使用者の意見があります。しかし、山の歩き方研修等で①靴底全体を地面につけて歩く、②急斜面では靴底のエッジを地面に食い込ませるといった登山の歩行技術を学んだ方からは、「履きなれると地下足袋より安心で、足の疲労を感じない」との声が上がっています。より安全につながる装備を使うようにしましょう。



防護ブーツでの歩行のコツ



資機材、設備などの安全性確保

1-(3)-② 機械や刃物等の日常点検・整備・保管を適切に行う。

！ 取組のポイント

- 林業機械やチェーンソー等を使う場合は、使用頻度や耐久性からリスクを考慮し、始業前点検や定期点検を実施しましょう。
- 機械の点検、掃除、修理をする場合には、エンジンを停止し、機械が完全に止まっていることを確認してから行いましょう。



作業環境の整備

1-(4)-③ 安全な作業手順、作業動作、機械・器具の使用方法を明文化又は可視化し、全ての従事者が見ることができるようにする。

！取組のポイント

- 安全な作業手順、作業動作、機械・器具の使用方法等について、マニュアル化し現場事務所や休憩所などに備え付けることや、手順や使用方法・禁止事項等を作業現場に掲示して徹底しましょう。
- 従事者全員がマニュアル通りの作業をできているか、監督者が定期的にチェック・指導しましょう。

参考 実践に向けた工夫

作業マニュアルは①作業ごとに、②準備から後片付けまで記載するようにしましょう。「1-(3)-② 機械や刃物等の日常点検・整備・保管を適切に行う。」の徹底にもつながります。

作業手順ごとに危険要因を洗い出し、リスクアセスメントと一体型にしてもよいでしょう。

(例)

間伐作業マニュアル

作業区分	手順		危険要因	可能性	重大性	…
準備作業	1. 作業前の安全ミーティング					
	2. 機械、工具等の点検					
	3. 作業服装の点検					
	4. 作業場所の環境点検					
本作業	1. 下刈					
	2. 伐倒	2-1. 伐倒方向を決める	かかり木により伐倒できない	中	大	
	…	…				
後片付け	1. 終業時整備	1-1. 使用機械・刃物の点検、修理	翌日の作業に支障をきたす	中	中	